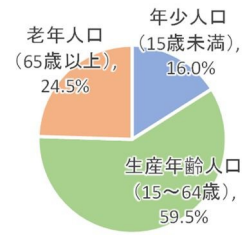


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	161 世帯	407 人	15 歳未満 (年少人口) 66 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 245 人
			65 歳以上 (老年人口) 101 人
約 50 年前	69 世帯	323 人	



地名は、ヨシの繁茂した湿地に由来するとされます。ヨシが生えていた所が徐々に開墾されて良い田ができたため、ヨシが「吉」となり、「吉田」となったとも考えられます。

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。永禄年間頃 (1558~1569) に領主吉田左近が並木構を構築したと伝わり、吉田の七曲がり道路は陣屋構の防衛的な縄張りを今に伝えています。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年 (1600) からは姫路藩領となり、大庄屋組では、はじめは八反田組、寛延2年 (1749) の一揆後の寛延3年 (1750) からは辻川組に属しました。明治9年 (1876) に南田原村の一部となりました。

集落北東の桶川の泉は、どのような早魃の時にも枯れることがないとされ、昔から長寿の水、極楽の水、万病に効く水として語り継がれ、安徳天皇が幼少の頃、この水で眼病を治したという伝説も伝わります。なお、明治42年 (1909) に井戸をさらったところ、観世音立像が発見され、安徳寺で祀られています。



※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

## 歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり											
				①	②	③	④	⑤	⑥						
建造物	建築物	1	安徳寺本堂	近代	木造平屋建、瓦葺。近代の寺院建築。							●			
		2	公民館(道場)	近代	木造平屋建、瓦葺。地区の公民館として使用。吉田区が所有・管理している。					●					
	石造物	3	薬師如来坐像(桶川の泉)	明治43年(1910)	薬師如来の石仏。正面には造立年月・像容とともに「世話人 内藤森蔵」と記されている。								●		
		4	三十三カ所観音(安徳寺)	不明	境内に西国三十三所札所の本尊を写した石仏が三十三基造立され、それぞれに番数と寺名、それを供養した人物などが記されている。								●		
		5	手水石(三十八社)	寛政6年(1794)	手水石。正面に「盥漱」、背面に造立年月・願主が記されている。縁には盃状穴がみられる。								●		
		6	狛犬(台座のみ)(三十八社)	大正6年(1917)	井上通泰らにより奉納された石造狛犬の台石。平成6年(1993)10月の境内整備により、台座のみが境内の隅で保管されている。				●					●	
		7	後藤安次郎翁還暦記念碑	大正13年(1924)	後藤安次郎翁の還暦を記念した石碑。									●	
		8	村雨富七墓(安徳寺)	天保8年(1837)	力士墓碑。正面には「村雨富七墓」と記されている。									●	
		9	竹本為太夫墓碑(吉田墓地)	天保15年(1844)	義太夫師匠墓碑。正面には「竹本為太夫」と記されている。				●					●	
		10	難波先生之墓(吉田墓地)	嘉永2年(1849)	墓碑。正面には「難波先生之墓」と記されている。					●				●	
美術工芸品	彫刻	11	観世音立像(安徳寺)	—	明治42年(1909)に桶川の井戸をさらった際に発見された観世音立像。元々「井十一面・観世音沈没しあり」という言い伝えがあったという。感激した地元の人々は、安徳寺に安置し、一大供養を行ったという。現在も安徳寺に安置されている。								●		
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	12	吉田区有文書	—	11件(点数不明)。					●					
有形の民俗文化財	祭具	13	屋台(吉田区)	—	布団屋根型屋台。平成24年(2012)に90年の歴史を有した屋台を新調し、平成25年(2013)には漆と飾金具を施して完成したもの。								●	●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり												
				①	②	③	④	⑤	⑥							
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	14	秋祭り（田原）	—	田原地区の屋台 12 台(布団屋根型 10 台、神輿屋根型 2 台)・神輿 1 台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台上で浄舞、浦安の舞が奉納される。									●	●	●
		15	斉灯	—	2月3日に三十八社で行われる。									●		
		16	湯立て	—	7月18日に三十八社で行われる。									●		
		17	七夕祭	—	8月4日に三十八社で行われる。									●		
		18	地藏盆	—	8月下旬に桶川の泉で行われていた。									●		
		19	施餓鬼	—	安徳寺で行われる。かつては四萬六千と別の日に行われていたが、近年8月9日にまとめて行われるようになった。										●	
		20	四萬六千	—	安徳寺で行われる。かつては施餓鬼供養と別の日に行われていたが、近年8月9日にまとめて行われるようになった。										●	
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	21	南田原条里遺跡	弥生時代 ～奈良時代	古代の条里(条坊)制地割の遺構。北から東へ約8度ふれた地割である。この区域では、弥生時代の溝や集石遺構、土器や石包丁、甑など、奈良時代の掘立柱建物跡や溝、土坑、製塩土器なども見つかった。							●				
		22	南田原桶川遺跡	旧石器時代 ～中世	溝やピット(小さな穴)、石器や土器、底部に墨書のある須恵器の坏などが見つかった。また、遺構を伴うものではないが、旧石器時代のナイフ型石器や中世の土師器鍋なども見つかり、連続と人々が住み続けてきたことが分かる。							●				
	古道・街道等	23	七曲り道	—	七か所の曲がり角がある道。陣屋構えの防衛的な縄張り道路で、民家の間を水路に沿って通る。現在も残るが、昭和4年(1929)頃に道幅の広い直進の道がつくられた。										●	●
	その他の遺跡	24	並木構跡	永禄年間頃 (1558~1569)	永禄年間(1558~1569)頃に領主吉田左近が並樹構を構築したと伝わる。											●

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
名勝地	河川	25	市川	—		●				
その他	信仰の場	26	三十八社	—			●			
		27	安徳寺	江戸時代開創	江戸時代開創の曹洞宗の寺院。正応4年(1291)の「田原荘実検注進状」にも同名の寺院名が見られ、寺名は引き継ぐが、中世からはかなりの変容があったと思われる。			●		
	民間説話・地名・伝承地・屋号等	28	桶川の泉	—	深さ1.5mほどの井戸で、水が底から泉のように湧き出て、早魃の時にも枯れることがないとされ、長寿の水、極楽の水、万病に効く水で、臨終にこの水を飲むと極楽に行けるとも言われた。安徳天皇が幼少の頃、この水で眼病を治したという伝説もある。明治42年(1909)に井戸をさらったところ、観世音立像が発見され、安徳寺で祀られている。			●		

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・区住民により、安徳寺の修理や定期的な清掃活動を実施しています。
- ・自治会内の団体が分担しながら七夕まつりを開催し、三世代交流や住民の繋がりづくりに取り組んでいます。また、幅広い世代の住民が参加して実施するコスモスまつりでの食事づくりは、災害時の炊き出しの訓練にもなっています。



七夕まつり



コスモスまつり（食事づくり）